



アストンマーティン 新型 Vantage GT3 ル・マン 24 時間デビュー戦にて 20 回目のクラス優勝を目指す

- アストンマーティンは、新設 LMGTC3 クラスで Vantage GT3 初勝利を狙う
- アストンマーティンは、ラ・サルトでの初レースから 96 周年を迎える
- IMSA ウェザーテック・スポーツカー選手権の GTD クラス優勝経験のある Heart of Racing が伝説のフランス開催レースに復帰、2 回目の出場
- D'station Racing は、新型 Vantage GT3 での国際レース初優勝を果たした前戦に続く連勝を狙う
- 2025 年ル・マンでの Valkyrie AMR-LMH デビューへのカウントダウン開始



2024 年 6 月 10 日、ル・マン（フランス）：

アストンマーティンの新型 Vantage GT3 は、今週末（6 月 15 日、16 日）に開催される世界で最も有名な耐久レース ル・マン 24 時間レースでのデビュー戦に、満を持して挑みます。ウルトラ・ラグジュアリー・スポーツカーのブリティッシュ・ブランドであるアストンマーティンにとって 20 回目となるクラス優勝を狙います。

フランス中部で 24 時間にわたって繰り広げられるレースには、2 台のアストンマーティン Vantage GT3 が出場します。Vantage GT3 は、今年初めにシルバーストンで初公開された新型ロードカーの Vantage と同じ機械的アーキテクチャを採用し、アストンマーティンの実績ある接着アルミシャシーを中心に組み立てられ、恐るべき 4.0 リッターV8 ツインターボエンジンを動力源としています。2 台の Vantage GT3 は、アストンマーティンが 2025 年に Valkyrie AMR-LMH でトップクラスに復帰するための土台を築くべく、2024 年新設の LMGT3 カテゴリーに出場します。

ル・マンでアストンマーティンの名を背負うのは、FIA 世界耐久選手権 [WEC] のパートナーチームである日本の D'station Racing と米国の Heart of Racing です。世界舞台の最高峰レースであるル・マンには今回、過去最高の 9 社の GT マニュファクチャラーが参戦します。

D'station Racing は、今月初めに鈴鹿にて開催された SUPER GT の GT300 クラスで藤井誠暢（日本）とチャーリー・ファグ（英国）が新型アストンマーティン Vantage GT3 初の国際レース優勝を勝ち取るという、歴史に残る快挙を成し遂げました。今回藤井誠暢は、マネージングディレクターとして、アストンマーティンのワークスドライバーで FIA 世界耐久選手権では 3 度チャンピオンに輝き 2022 年ル・マンではクラス優勝を果たしているマルコ・ソーレンセン（デンマーク）が率いるチームを統括します。

ソーレンセンが#777 でのレースを共にするのは、今回ル・マン初参戦となる、GT4 ヨーロピアンシリーズと GT フランスシリーズ両方のタイトルを獲得したエルワン・バスタード（フランス）と、昨シーズン最終戦のバーレーン 8 時間レースで 2 位に入ってから FIA WEC 参戦となるチーム代表の星野敏（日本）です。

2025 年にハイパーカークラスでアストンマーティンのワークスカーValkyrie AMR-LMH を走らせる Heart of Racing は、#27 の Vantage で WEC シーズン開幕戦のカタール 1812km レース 2 位という最高成績で新たな LMGT3 時代のスタートを切りました。ラ・サルトでは、昨年のル・マン初参戦での 6 位を超える成績を狙います。チームのドライバー戦力の中心となるのはチーム代表のイアン・ジェームス（英国）で、シングルシーターのチャンピオン経験者ダニエル・マンチネッリ（イタリア）と IMSA 優勝経験者のアレックス・リベラス（スペイン）が共に戦います。

重要なことに、FIA 世界耐久選手権第 4 戦のル・マンは、その長さや難易度からダブルポイント制を採用しています。つまり、ル・マンは、現在チーム順位 3 位と 5 位につけている Heart of Racing と D'station Racing にとってシーズンのヨーロッパ戦終了時点のスタンディングでトップに躍り出るチャンスです。

アストンマーティンの耐久レースの歴史は、ル・マンと切っても切り離せない関係にあります。ロバート・バンフォードとライオネル・マーティンが創業してからわずか 15 年後の 1928 年には、ラ・サルトのレースに AM415 「International」が 2 台出場しました。3 年後、アウグ

ストゥス・チェザーレ・ベルテッリとモーリス・ハーヴェイが **International** で **1.5** リッタークラス優勝し、初勝利を挙げました。**1932** 年と **1933** 年にもクラス優勝を果たしています。**30** 年代には **Ulster** がさらに **2** 度の勝利を収め、第二次世界大戦前の時代、アストンマーティンはル・マンを代表するマニュファクチャラーのひとつとなっていました。

1940 年から **1948** 年、ヨーロッパが第二次世界大戦に見舞われる中でレースも中断されましたが、**1949** 年に再開されるとアストンマーティンも参戦し、**1950** 年代にかけて **3** リッタークラスを独占しました。**1951** 年には **DB2** が **1** 位、**2** 位、**3** 位となり、**6** 度クラス優勝をしています。この全盛期は、**1959** 年のキャロル・シェルビーとロイ・サルヴァドーリの **DBR1** の輝かしい総合優勝で頂点を極めることとなります。アストンマーティンが、レース界の伝説的なスターたちが集まることで知られるようになったのもこの頃です。アストンマーティンでル・マンを戦った数多くの名ドライバーには、ジム・クラーク、サー・スターリング・モス、ピーター・コリンズ、サー・ジャック・ブラバム、シェルビー、サルヴァドーリ、トニー・ブルックス、フィル・ヒル、サー・ジョン・サーティース、イネス・アイルランド、グラハム・ヒル、ブルース・マクラーレンなどが名を連ねます。

今世紀に入り、アストンマーティンは再び真の偉大な **GT** マニュファクチャラーのひとつとして台頭しています。**2006** 年にレースに復帰して **GT1** クラスの表彰台を獲得すると、**2007** 年にはダレン・ターナー、リカルド・リデル、デビッド・ブラバムが、強大なパワーを誇る **V12** を搭載した **DBR9** でコルベットを抑えて圧勝しました。アストンマーティンは、翌年も再び優勝を手に入れます。

2012 年に **WEC** 時代が幕を開けると、アストンマーティンは **Vantage** で **5** 回のクラス優勝を勝ち取ります。まずは **2014** 年に **V8 Vantage GTE** でニッキ・ティーム、クリスティアン・ポウルセン、デイヴィッド・ハイネマイヤー・ハンソンというデンマーク組で **GTE Am** クラス優勝を達成し、次に **2017** 年にジョニー・アダム（英国）が最終ラップでライバルのコルベットを華麗に追い抜いて、チームメイトのターナー（**15** 回の出走、**3** 回の優勝、とアストンマーティンの中でル・マンで最も成功を収めたドライバー）、ダニエル・セラ（ブラジル）と共に劇的な **GTE Pro** 優勝を勝ち取りました。

Vantage GTE がル・マンにデビューしたのは **2018** 年で、**2020** 年に鮮やかなダブルクラス優勝を飾りました。アレックス・リン（英国）、マキシム・マルタン（ベルギー）、ハリー・テインクネル（英国）は従来の日曜朝のブレーキ交換のためのピットインを行わない戦略でフェラーリに対し大勝を収め、もう一方の **TF Sport** はサリ・ヨルック（トルコ）、アダム、イーストウッドが **GTE Am** を制しました。**TF Sport** は世界選手権タイトルを獲得した **2022** 年にも、ベン・キーティング（米国）、エンリケ・シャヴェス（ポルトガル）、ソーレンセン組が優勝しています。

アストンマーティンの **53** 回目の出場でもあった昨年の **100** 周年大会での表彰台獲得と同時にル・マンにおける **GTE** 時代は幕を閉じ、新しい **LMGT3** カテゴリーの夜明けへとファンを導い

ていきました。Vantage GT3 は、ル・マンで競ってきた 28 台のアストンマーティンのシャシーとエンジンの集大成です。アストンマーティンにこれほどまで数多くの成功をもたらし、アストンマーティンの DNA がレースの本質そのものから作り出されていることを揺るぎなく証明し続けたサーキットは、ル・マンにおいてほかにはありません。

耐久モータースポーツ責任者のアダム・カーターは次のように述べています。「ル・マン 24 時間レースは、モータースポーツの中でも最もアイコニックなレースのひとつであり、アストンマーティンのレースの歴史と切り離せない関係にあるのも当然なことです。2025 年にハイパーカーの Valkyrie AMR-LMH でトップクラスへの復帰の準備を進めていく一方で、今年は 2 つの素晴らしいパートナーチーム、D'station Racing と Heart of Racing が新型 Vantage GT3 をル・マンにデビューさせてくれます。これ自体が極めて重大な出来事です。今回はアストンマーティンのル・マン出場 54 回目の大会になりますが、これまでを通して学んだのは、純粋なスピード勝負だけではこのレースを制することはできないということです。パフォーマンスも粘り強い技術力も必要ですし、不屈の精神も少なからず求められます。この名高いレースで 20 回目のクラス優勝を目指して戦う中で、アストンマーティンはこのすべてを発揮できるように、力を尽くしていきます。」

今年のル・マン LMGT3 クラスの出場台数は 23 台と、WEC の今シーズン最大の台数になっています。競技は 2 週末にわたって開催され、公開車検と公式テストは 6 月 8 日と 9 日に実施されました。練習と予選は水曜日と木曜日、レースは 6 月 15 日中央ヨーロッパ時間 15:00 に開始されます。

レースの詳細は WEC の公式ウェブサイトと公式アプリでご覧いただけます。

こちらのプレスリリースに関する素材は、下記よりダウンロード可能です。

<https://we.tl/t-fpO975trww>

アストンマーティン・ラゴндаについて

アストンマーティンは、世界でもっとも熱望されるウルトラ・ラグジュアリー・ブリティッシュ・ブランドとなることを目指し、人々を魅了してやまないハイパフォーマンス・カーを作っています。

ライオネル・マーティンとロバート・バンフォードによって 1913 年に設立されたアストンマーティンは、スタイル、ラグジュアリー、パフォーマンス、エクスクルーシブネスを象徴するグローバル・ブランドとして知られています。アストンマーティンは、最先端のテクノロジー、卓越したクラフトマンシップ、美しいスタイルを融合させ、Vantage、DB12、DBS、DBX に加え、同社初のハイパーカーである Valkyrie など、高い評価を得ている一連のラグジュアリー・モデルを生み出しています。また、Racing. Green. サステナビリティ戦略に沿って、アスト

ンマーティンは2025年から2030年にかけて、PHEVとBEVを含むブレンドドライブトレインアプローチによる内燃エンジンの代替システムの開発にも取り組んでおり、電気自動車のスポーツカーとSUVのラインナップを持つという明確なプランを描いています。

英国のゲイドンを拠点とするアストンマーティン・ラゴндаは、ラグジュアリー・カーを設計、製造、輸出し、世界で50以上もの国で販売しています。スポーツカー・ラインナップはゲイドンで製造されており、ラグジュアリーSUVのDBXは、ウェールズのセント・アサンで製造されています。同社は、2030年までに製造施設をネットゼロにする目標を掲げています。

ラゴндаは1899年に設立され、1947年にアストンマーティンとともに故デビッド・ブラウン卿に買収され、現在は「Aston Martin Lagonda Global Holdings plc」としてロンドン証券取引所に上場しています。

2020年には、ローレンス・ストロールが同社のエグゼクティブ・チェアマンに就任し、未来の重要な分野に対して新たな投資を行うと同時に、アストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ1®チームとともにモータースポーツの頂点へと復帰し、英国を象徴するブランドとして新たな時代へと乗り出しています。



<https://media.astonmartin.com/>

メディア問い合わせ先：

Aston Martin Lagonda
Head of Regional Marketing & Communications-Asia Pacific
有澤 久美子

kumiko.arisawa@astonmartin.com

株式会社ブレインズ・カンパニー

加藤 七瀬：070-7611-6970 御園生資己：090-8063-7117

astonmartin-pr@pjbc.co.jp